

ほんいろいろ NO.130

えと
干支



とんだばやししりつとしょかん
2025年12月

『夜明けをつれてくる犬』

吉田 桃子／著

講談社 2021年 請求記号:9-0/ヨシ



はな
話そうとしても、のどに見えないビー玉だまがつまたよう
になり、うまく話せなくなる美咲。唯一の話し相手だった
レオンを亡くしてからは、毎日レオンのことばかり考
えていた。ある日、通学路にある花屋さんでレオンにそっく
りな犬を見つけ、勇気を出して店に入ってみた。レオンと
そっくりな犬は、ビリーという名前なまえだった。

『くいしんぼうシマウマ』

ムウェニエ・ハディン／文

アドリエンヌ・ケナウェイ／絵

草山 万兎／訳

西村書店 2016年 請求記号:Iホシ/ケ



むかし、世界中の動物せかいのじゅうどうがみんなうすぼけた色いろをしていましたこ
ろのことです。ある日、巨大なほらあながあらわれて、そのな
かから毛皮けがわやつの、しっぽしどぶつがみつかりました。動物どうぶつたちは思
い思いにきものをつくりはじめます。くいしんぼうのシマウマ
もほらあなへむかいますが、たちどまつては草くさをたべるので
なかなかたどりつきません。やっとついたほらあなにのこつて
いたものは黒い布くろいぬだけでした。シマウマのきものは、どんなも
のになるのでしょうか。

『十二支のはじまり』

岩崎 京子／文

二俣 英五郎／画

教育画劇 1997年 請求記号:Iホン/フ



むかし、かみさまが動物たちに正月に集まるように声をかけました。ねずみは、ねこに二日に集まるとうそを教えます。ねずみや牛、ほかの動物たちもつぎつぎとかみさまのところへたどり着きました。かみさまは、早く着いた動物から干支の年を決めていきました。だまされたねこは、1日おくれてかみさまのもとへやってきます。

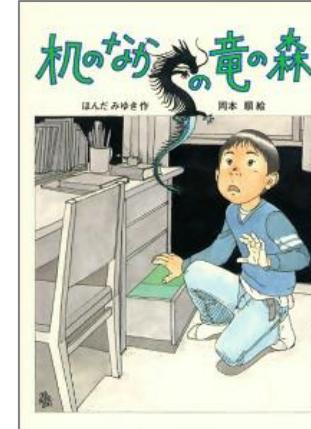
2.

『机のなかの竜の森』

ほんだ みゆき／作

岡本 順／絵

ポプラ社 2003年 請求記号:9-0/ホン



コーダが通う小学校の門の前に『いい竜 売ってます』というのぼりを立てた屋台がでました。竜がほしいコーダは、屋台の店じまいをするおじいさんに声をかけます。おじいさんは、「竜のたまご」だと言ってどんぐりのようなものをくれました。それと一緒に、「土」「雲」と書かれたふくろもわたされたコーダは、さっそく説明書のとおりに家の机のひきだしに「土」を入れて「竜のたまご」をうめました。さて、竜は生まれるのでしょうか?

11.

ほんだみゆき・岡本順・机のなかの竜の森・ポプラ社・2003・1p.

『うさぎがいっぱい』

ペギー・パリッシュ／ぶん

光吉 夏弥／やく

レオナード・ケスラー／え

大日本図書 2011年 請求記号:9-0/ハ



モリーおばさんの家に一匹のふとったうさぎがとまりにきました。よく朝、なんと子どもがたくさん産まれていました。子うさぎは大きくなると、モリーおばさんよりよく食べるようになり、気がつくとそのまた子どもができて、家中が足のふみ場もないくらいうさぎだらけになりました。モリーおばさんは大ピンチです。

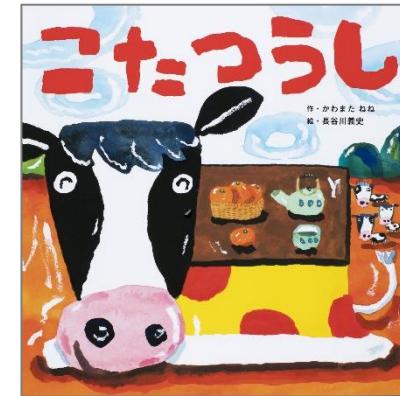
10.

『こたつうし』

かわまた ねね／作

長谷川 義史／絵

世界文化社 2020年 請求番号:イホン/ハ



寒くてこたつから出なくなり、このようなすがたになったこたつ。こたつどうしてこたつうし。いつでもどこでもこたつを楽しめます。ある日、子どもたちが「こたつっていいものなの?」とたずねます。入ってみるとモー最高! 3頭入るとぎゅうぎゅうだけど、幸せすぎてうっしつしつ! さあ、みんなもこたつに入って読んでね。

3.

『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

ジェラルド・ローズ／文・絵

ふしみ みさを／訳

岩波書店 2011年 請求記号:イポン/ロ



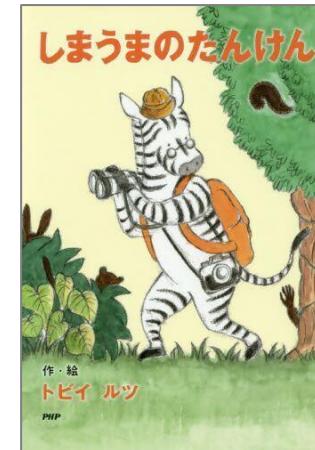
インドのジャングルにすむトラは、すっかりとしをとりえ
ものがめったにとれなくてほねとかわばかりになってい
ました。「いいなあオレもなかまにはいりたいなあ」やせ
こけたトラはきゅうでんのひろまでおいしそうにごはんを
たべている王さまとかぞくがうらやましくてたまりませ
ん。ところがある日、トラはひらめきました!

4.

『しまうまのたんけん』

トビイ ルツ／作・絵

PHP 研究所 2019年 請求記号:9-0/トヒ



サバンナでくらすしまうまの子どもは、ある日さばくの
おうさまに「見つけたらしあわせになれる『まぼろしのど
うぶつ』をつれてくるように」といわれ、ひとりで『まぼ
ろしのどうぶつ』をさがすぼうけんにてかることにしま
した。まぼろしのどうぶつとはどんなどうぶつかな?しあわ
せとは?みんなでもっとさがしてみようよ。

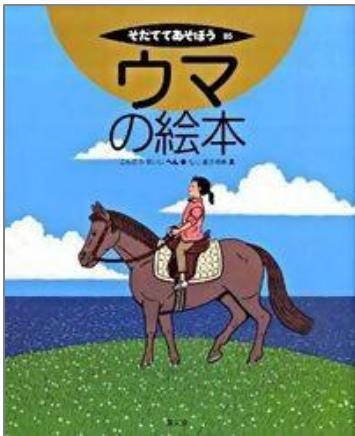
9.

『ウマの絵本 そだててあそぼう 85』

近藤 誠司／編

森 雅之／絵

農山漁村文化協会 2009年 請求記号:649



ウマは、むかしから草を食べて平原をかけまわっていたよ。さいしょ、ウマは人の食べものでした。人がウマをかいはじめたのは 6000年前! それからは、のつたり荷物をはこんだりして、人をたすけてくれる大切な仲間になったんだ。ウマには色んな仲間がいて、体の大きさや毛の色もちがうんだよ。さあ、ウマのひみつをのぞいてみよう!

8.

『十二支えほん』

谷山 彩子／作

あすなろ書房 2020年 請求記号:382



むかしむかし、ある年の暮れに王様が言った「元日の朝、新年のあいさつに来なさい。」から 12 着までを王様にしてあげよう…」というお話は有名ですが、この本では大昔に中国で作られた数え方、「十干」と「干支」の組み合わせや、時間と方角、年齢をあらわしていた事など、「十二支」について知ることができます。

5.

『イチからつくる 羊の毛糸とフェルト』

本出 ますみ／監修

バン チハル／絵

農山漁村文化協会 2024年 請求記号:586



毛糸やフェルトは、ヒツジの毛からできています。ヒツジの毛はあたたかく、雨をはじき、燃えにくくてじょうぶな、やわらかいすごい毛なんです。また、ヒツジは毛がぬけないように、人が使いやすくなるよう品種改良されてきました。ヒツジの毛を刈りとったあと、ごみを取って、洗って、フェルトや毛糸になる工程がよく分かるよ!

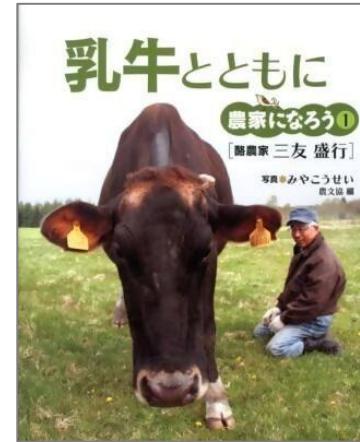
6.

『乳牛とともに 農家になろう①』

みや こうせい／写真

農山漁村文化協会／編

農山漁村文化協会 2012年 請求記号:641



みんながのんでいる牛乳を作るために牛を育てている人たちがいます。この本では、北海道で50年も牛を育てている人が出てきます。まいにち朝早くからえさをやり牛舎のそうじをします。牛の鳴き声からぐあいがわるくなっているかわかります。そうやって大切に育てた牛たちが、たくさんの乳を出し、私たちの食卓に並びます。

7.